

平成23年度

# 北海道高文連集録

# 郷 土

専門部長 尾留川 安彦 北広島高等学校  
専門委員長 矢崎 一人 恵庭北高等学校  
専門部事務局長 浅井 清志 北広島高等学校

平成23年度の全国高等学校総合文化祭（福島大会）郷土芸能大会は、7月27～29日にかけて、岩手県盛岡市の盛岡市民文化ホールを会場に開かれました。当初会場予定の福島県南相馬市が地震と津波の大被害をうけたため、急遽会場を変更して、盛岡市での開催となったのです。全国大会の場を提供していただいた盛岡市の関係者には本当に感謝しております。また、各地の復興にかける積極的な活動からも、我々自身元気をいただきました。

大会には昨年とほぼ同じ51校の参加があり、全国の高校生による若々しく熱氣のある演技・演奏が3日日繰り広げられました。どの高校も震災復興への思いを十分に伝えてくれていたと思います、大会2日目の1番手として登場した釧路江南高校は、「叡智天翔・衝撃」を、持ち前の基本に忠実で綺麗な演奏で披露してくれました。昨年の宮崎大会では、口蹄疫の影響によりビデオ映像のみの参加でしたが、その悔しさをはらすかのような一生懸命の演奏でした。大会3日目には札幌創成高校の「拓」の演奏がありました。バランスがとれリズムのあったよい演奏でした。大会期間中は比較的涼しい日が続いて、猛暑の中でのコンディションづくりに苦しんだ昨年まではちがい、健康面での問題はなかったように思われます。しかし、大会中止という決定が一度なされ、その後、盛岡開催の準備が整うまでに時間がかかったため、生徒のモチベーションを再びもとの状態にもどし、練習に専念させるには、かなりむずかしかったとも聞いています。また、急遽会場が変更となり、予算制約もあったためか、練習会場や輸送手段の手配も出場校自身がせざるをえませんでした。こうした不測の事態に対応していくける強い精神力を、生徒だけではなく、我々自身も育てていく必要があるかもしれません。

大会1日目、全国郷土芸能専門部会が開かれ、昨年にひきつづき、和太鼓の得点や講評の開示等について話し合われました。和太鼓部門では昨年から実施されたA・B・Cの3ランク評価とともに、合計得点の開示も今大会から採用されることになりました。全国大会の審査基準に基づき、審査員1人合計20点、3人の合計60点で審査をおこない、その総合得点を公表するというもので、今年度は上位11校がA、次の11校がB、そして13校がCということになりました。ちなみに、最高得点は56点、最低点は39点ということです。北海道代表の釧路江南高校はB、札幌創成高校はCの評価でした。

得点開示の方向性は今後も変わらないと思いますが、

その内容や方法について、次年度以降の専門部会でさらに議論されていくことと思います。また、来年度から参加料を徴収（生徒1人につき1,000円）することも報告され、あわせて従来開催県の方で準備してくれていた、練習会場と本会場までのシャトルトラック・バスも手配できることでした。全国出場権を得たとしても、練習会場の確保など、出場校の経済的負担はより大きくなっていくことが懸念されます。この件については、専門部でもできるだけ援助していくつもりでいます。

平成23年11月16～18日、岩内地方文化センターにおいて、第46回全道高等学校郷土研究発表大会（道高文連主催）が開催されました。当番校である北海道岩内高等学校の榎本眞智子校長はじめ、教職員・生徒の皆さんのご尽力によりすばらしい大会となりました。この場をかりてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

今年度は研究部門に3校、芸能部門に6校の参加がありました。研究部門では旭川龍谷高校の「上川アイヌの研究その46－アイヌ民族の精神文化－」が最優秀賞に選ばされました。東日本大震災に関するカムイノミに参加した体験から、アイヌ民族の「カムイ」に対する考え方を調べ、「ケエ ホムス（kewe-homs 魔人祓いの呪術的行進」を高校生自らがアイヌ衣装を着て再現した発表でした。この儀式は普通ではない重大な事故や災いがあった時に行われるもので、魔除けの力があるとされる「イケマ」という毒性のある植物の根を噛み、その液やカスを吐き散らし、アイヌ刀を振りかざして唸り声をあげる最も強い魔神退散の踊りといわれています。まさに魔神祓いを目の当たりにしているような迫真的演技を披露してくれました。優秀賞となった函館工業高等専門学校と北広島高校の2校の発表もすばらしいものでした。函館高専の発表は、涌元古銭のなかからベトナム陳朝（14世紀）の開泰元寶（かいたいげんぽう）1枚を発見しその成分分析を試みたもので、日本初の発見であったことをはじめ、他のベトナム古銭（天福鎮寶）との成分比較など興味のつきない発表でした。北広島高校は夕張鉄道の研究の3年目。鉄道沿線の変遷を、地域住民の取材やインタビューをまじえて発表し、最後に鉄道を地域再生に生かすべきであると指摘しました。高校生の視点から地域を考えたすばらしい内容でした。

芸能部門では、「創」を演奏した札幌創成高校が最優秀賞となりました。チャッパや鉄管、銅鑼をもちいた期待感いっぱいの独創的導入部、各パートのバランスの良

郷  
土

さなど、昨年までの演奏に較べ格段にレベルアップしました。全国大会の様子・雰囲気、近年の演奏スタイルの流れなどをよくつかみ、そこに創成らしさを加えたすばらしい内容でした。昨年度まで10年連続最優秀賞だった釧路江南高校は残念ながら優秀賞でした。しかし、持ち前の綺麗で観衆と一体化した演奏は健在です。来年度の全国高総文祭（富山大会）には、この2校が出場します。北海道らしい小気味よさを前面に出した演奏をお願いします。

今年度の全道大会は、参加校こそ少なかったものの、その発表・演奏内容はすばらしいものでした。芸能部門は、優良賞となった石狩翔陽高校や岩内高校などがそれぞれの特色をいかした演奏に心がけており、奨励賞の2校とともに実力伯仲の様相を呈しています。互いに研鑽、刺激し合って北海道のレベルをさらにあげていってほしいと感じました。研究部門は、いずれも継続研究の成果を発表したもので、内容の充実ぶりは特筆に値します。再来年の全国大会（長崎大会）では、4年ぶりに郷土研究が協賛部門で復活します。指摘された点をきちんと改善してさらなるレベルアップを期待しています。また、旭川の川村力子ト記念館で、大震災の直後から毎日、「震災の唱え言葉」を伝えるカムイノミをおこなっており、このカムイノミに参加したことが旭川龍谷高校の発表のきっかけだと聞きました。全国大会の運営に尽力していただいた盛岡市の関係者をはじめ、震災の被害を受けながらも多くの方々が高校生の活動を応援してくださっているのです。今年度は、こうした人たちによって高校生の地域活動が支えられていることを痛感した1年でもあります。高校の郷土研究・芸能部を取り巻く環境は年々厳しいものになってきています。しかし、これらの方々の期待に応えるためにも、私たちは地域とさらに手を携えて、活動を継続・発展させていかなければならないと思います。

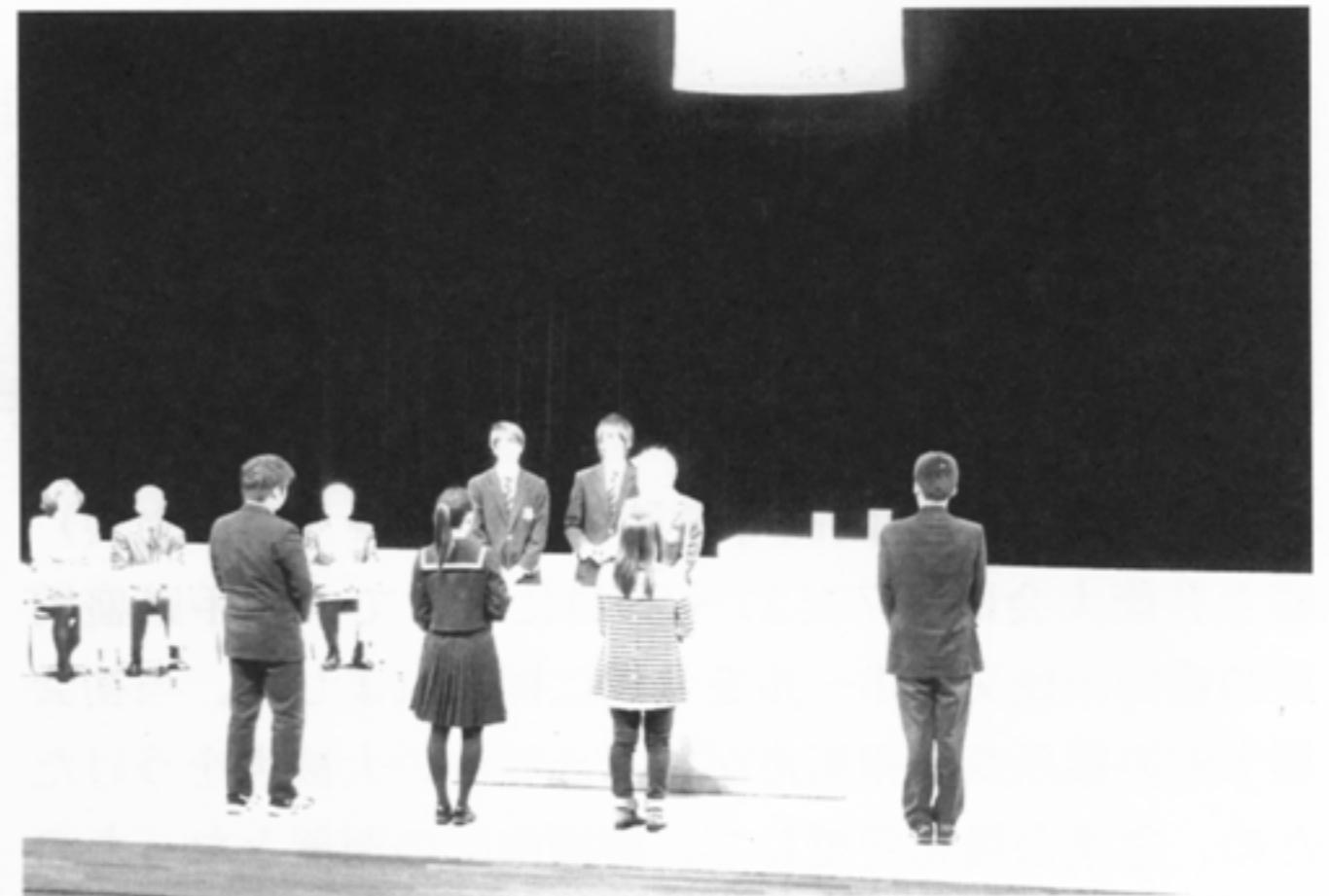
#### 第46回全道高等学校郷土研究発表大会

##### 【郷土芸能部門】

- 最優秀賞 札幌創成高等学校
- 優秀賞 北海道釧路江南高等学校
- 優良賞 北海道岩内高等学校
- 優良賞 北海道石狩翔陽高等学校
- 奨励賞 北海道中標津農業高等学校
- 奨励賞 旭川実業高等学校

##### 【郷土研究部門】

- 最優秀賞 旭川龍谷高等学校
- 優秀賞 函館工業高等専門学校
- 優秀賞 北海道北広島高等学校



## 発表要旨

### 郷土研究部門

#### 1. 「開泰元寶の発見」

函館工業高等専門学校

函館工業高等専門学校埋蔵文化研究会は2008年より湧元古銭（1951年上磯郡知内町にて出土）について調査を行っており、現在までに700枚の拓本採取と銭種判読が完了した。本年5月に未読古銭の判読作業中、その一枚が開泰元寶であることを発見した。開泰元寶はベトナム陳朝で開泰年間（1324年～1329年）に鋳造された



錢貨で、これまでに国内から出土した報告はなく、今回の発見は、わが国における最初の出土記録となる。今回は、開泰元寶発見の経緯と蛍光X線分析装置による成分分析の結果について報告する。

## 2. 「夕張鉄道と沿線地域の人々の関わり」

北海道北広島高等学校

一昨年からの夕張鉄道の研究も今年が最後となりました。今まで私たちは、どのようにして夕張鉄道が生まれ、どのようにして消えていったのかを研究してきました。

去年までの研究をふまえて、今年の研究テーマは「夕張鉄道と沿線地域の人々の関わり」です。実際にかつて夕張鉄道に勤めていた人にインタビューしたり、三菱大夕張鉄道保存会の方々との交流をしたりして、ただ資料や実際にあった場所に行っただけではわからないことを学べたので、それを研究に取り入れました。



## 3. 「上川アイヌの研究 その46」 アイヌ民族の精神文化

旭川龍谷高等学校

今年の春、日ごろからお世話になっている川村力子トアイヌ記念館を訪れたとき、館長の川村兼一さんよりカムイノミ（神へのお祈り）への参加をお願いされた。このとき行われたカムイノミは、東北地方太平洋沖地震によるさまざまな被害にあった方々へのお見舞いの言葉をのべたものであった。今年度の研究は「上川アイヌの研究その46」として、3年間体験してきた儀礼をとおしてみたアイヌ民族の信仰観をまとめてみたい。



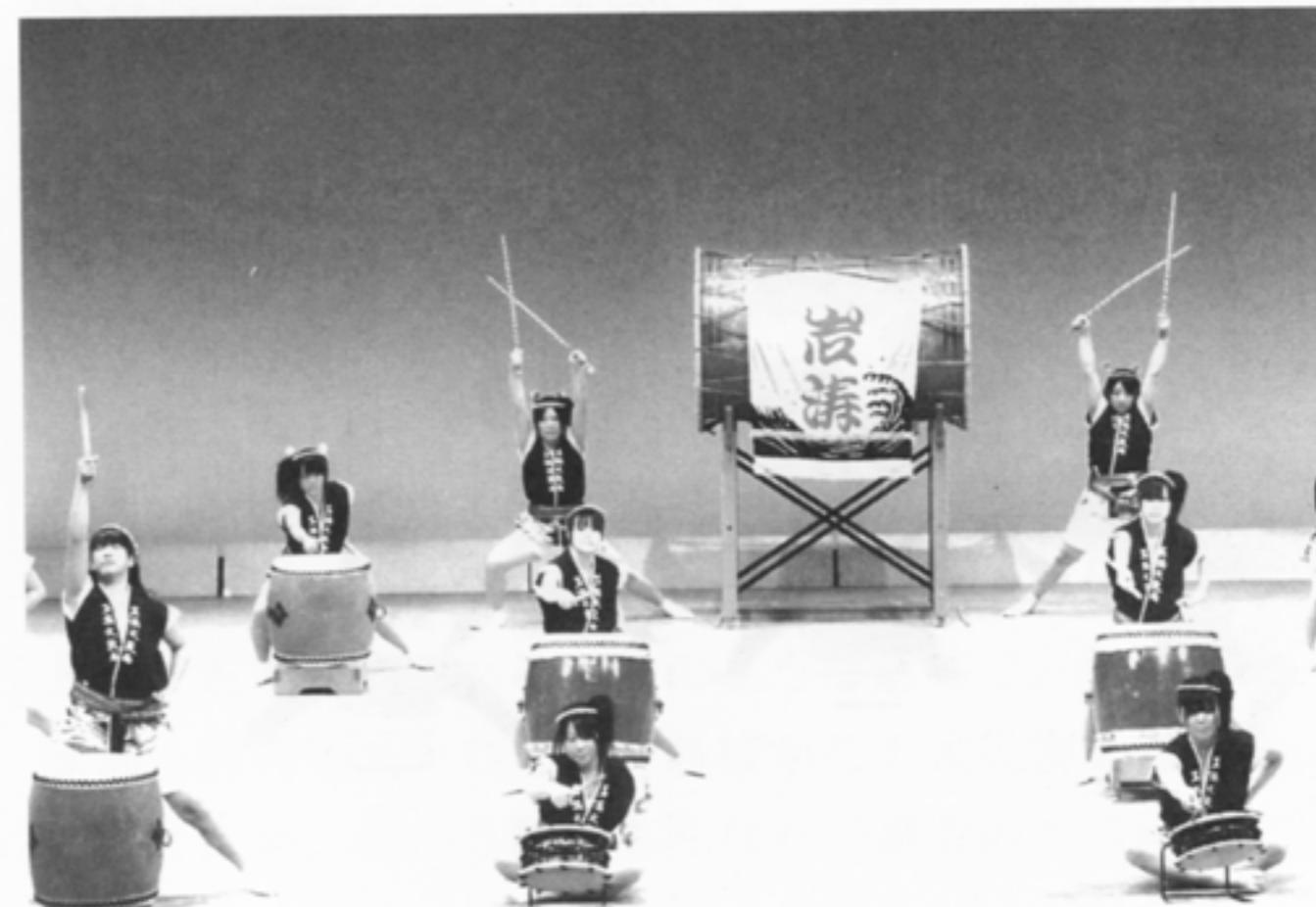
## 郷土芸能部門

### 1. 「怒涛」「虎擲龍擎」

北海道岩内高等学校

1曲目は「虎擲龍擎」という曲です。速いテンポで展開されているこの曲は、荒々しい太鼓の音色がまるで虎と龍が対決しているかのように錯覚させ、それが名の由来になっています。

2曲目は、「怒涛」という曲です。この曲は卒業していった先輩たちが作ってくれた曲です。構成は工夫がされており、メリハリのあるリズムで気分も高揚します。先輩の曲にこめる思いと、私たち部員全員の思いがこの曲に込められています。



### 2. 「乱舞」

北海道石狩翔陽高等学校



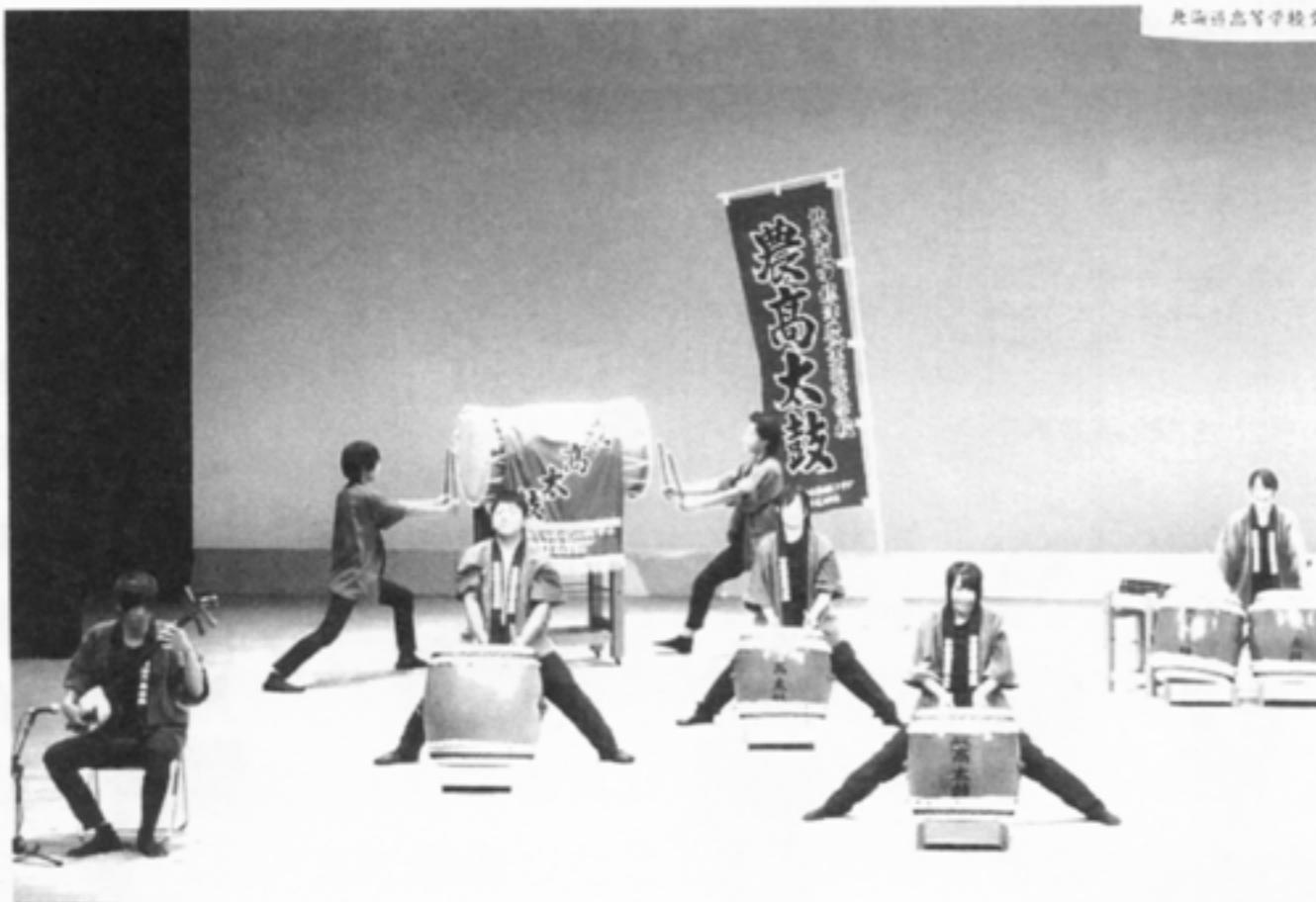
日本には「春夏秋冬」という4つの季節があります。春は雪どけにより土に眠っていた草花が生い茂り、夏には太陽の光を浴び、秋には収穫を始め、冬には草花が眠りにつく。この「乱舞」は冬が終り春になるにつれて草花が芽吹き、たくさんの食物が収穫を迎える秋までの季節の流れを表現しています。収穫を待ち望んでいる農民の願いがこめられている曲です。私たちは太鼓でその当時の日本の姿を精一杯表すことができたらと思います。

### 3. 「族」

#### 北海道中標津農業高等学校

私たちはプロの和太鼓集団「鼓動」が演奏している曲の一つである「族」を演奏します。いくつかのリズムを組み合わせ、それを繰り返していくというシンプルな構成ながら、人間の奥底に潜む何かを振り動かす不思議な曲です。一本打ちの力強さ、ドラム打ちの激しいリズム、主旋律に呼応して弾むような裏打ちなど、それぞれのパートの良い部分を融合させ、奥深く躍動感のある演奏にしたいと思います。

「族」は「家族の族」「親族の族」「民族の族」。一打一打に精魂を込めて叩きます。



### 4. 「組曲 山彦」

#### 旭川実業高等学校

この曲は昨年本校50周年のために旭川北鎮太鼓の方から「山彦」をアレンジし作曲していただいた曲です。今年は昨年度の反省を生かし新たな曲として仕上げ、全道大会のために日々練習してきた曲です。一打一振りに心を込めて演奏します。



### 5. 「創」

#### 札幌創成高等学校

演目名の「創」の字には「新しい創成太鼓部の歴史を創る」という意味がこめられていて、学校名より創成の一文字をいただきました。曲の内容は、昔の先輩方が作ってくれた「前進」と、去年の冬から部員一同で新しいフレーズを作った新曲が中心で、より良いものを創りあげようと努力してきました。4年連続5回目の全国大会出場を目指し、日々部員全員で前進している私たちの演奏をどうぞお聞きください。



### 6. 「時空・衝撃」

#### 北海道釧路江南高等学校

正しく刻まれる時間と、どんな事がらをも受け入れる不变な空間。永遠に繰り返される広い宇宙の中で生きる私たちは、小さな喜びや怒りを積み重ねて、心動かされる大きな何かを見つけていく。「時空」は、心身を揺さぶる音に触れた原点に戻り、時空をこえて、果てしない宇宙をクラシカルなリズムで表現した曲です。

人生における様々な出会い、事象の中には、人生観や世界観を変えてしまうほどの激しい衝撃をもたらすものもあります。「衝撃」はそんな心の葛藤を表現し、作曲されました。和太鼓の極限までの音・響きを伝えます。



# 発表講評

## 郷土研究部門

福田 隆三

(前NHK学園高校指導部)

### 1. 「開泰元寶の発見」

〈優秀〉

函館工業高等専門学校

3年連続の道南地区の古銭研究、ついに新発見という、しかも日本で初めてというベトナム銭を分析装置で成文組成を明らかにした今回の発表内容は、本校でなければ不可能なものでした。今年の5月、各新聞で報道されたコピーも添付されています。この発見が日本史、そして東アジア史との新しい交易関係を教えてくれるかもしれません。発表した学生の態度も堂々としており、今後の研究成果が大いに期待されます。お二人の指導者の指導姿勢に敬意を表します。レジュメではお世話になった方々への謝辞もあり好ましい態度でした。

北広島高校も相変わらず本研究部の歩みを述べて、今回は3年目の継続研究でした。説明にスライドを使い、レジュメにも載せて分かりやすくし、結論も鉄道に対してこれからの必要な3点を挙げて説明態度も良くさすがでした。

旭川龍谷高校の発表は、今回の「46回大会」に「46回」の継続研究に敬服します。3・11の「東日本大震災」の今年、「アイヌ民族の世界観」からの説明がありました。落ち着いて完全に自分のものとしての発表、質問にもしっかりと回答しておりさすがでした。

関秀志

(前北海道開拓記念館)

今年は発表校が3校と少なく残念だったが、いずれもレベルが向上し充実した発表だった。

### 2. 「夕張鉄道と沿線地域の人々の関わり」(優秀)

北海道北広島高等学校

継続研究の3年目で大変良くまとめている。まず、本校郷土研究部の研究活動の歩みと本研究のねらい、さらに、夕張鉄道の歴史を含めた過去2年間の研究成果を要領よくまとめ、さらに、夕張の状況の変化を写真を用いて説明している。調査で協力いただいた関係者も紹介し、参考文献を明記しているのもよい。最後に残された鉄道を地域社会再生に生かす必要を指摘し、そのための要件として、鉄道の利便性の向上、地元の個性を生かすこと、情報発信の3点を提案している。地域史の調査研究は単に過去に対する関心に留まらず、常に現代に対する問題意識が大切であることを認識した発表で好感がもてる。ただ、調査地域を夕張市内に限定せず、沿線住民からの聴き取り調査にも力を入れると、さらに充実した発表に

なったものと思われる。

私が担当した講評は以上であるが、他の2校についても一言ふれておきたい。

旭川龍谷高等学校の「上川アイヌの研究46 アイヌ民族の精神文化」は悪魔祓いを取り上げているが、3月に発生した大震災に関連した神への祈りへの体験を主とした時宜を得た発表で、レジュメ、内容、発表方法共に大変優れており、感銘を受けた。

また、函館高専の発表は、新発見の「開泰元寶」に関するものであるが、同校の特性を生かした科学的成分分析を主体とした古銭に関する継続研究の成果で、学術価値が高い。

野村 崇

(前北海道開拓の村)

郷

土

### 3. 「上川アイヌの研究 その46」 〈最優秀〉 アイヌ民族の精神文化

旭川龍谷高等学校

本年3月11日午後におこった東日本大震災は、それ以前と以後の世界を一変させた。震災によって起こった大津波と東京電力福島原発事故は、北海道に住む我々にとっても大問題である。そのような意味で、今年の高文連郷土研究発表大会では、各校がこの大災害をどのように捉えたか、という観点も私なりの審査の一つに加えてみた。

この課題にみごとに応えてくれたのが本発表である。本校が例年指導を受けている旭川市近文の川村力子トアイヌ記念館の川村兼一館長が、震災後から毎日行っている「ロルンペ コ ポロセ イタック（震災の唱え言葉）」を伝えるカムイノミ（神への祈り）への参加を要請され、その再現が本発表の中核となった。

アイヌ語による「震災の唱え言葉」の再現と解説に始まり、アイヌ民族の世界観、あの世とこの世、アイヌが考える災いから神居古潭に残る伝説を紹介する。パワーポイントから美しい風景が写しだされるが、発表者は手元の原稿に気を取られ、必ずしも説明と合致しないところもあった。「魔神祓い」の呪術的行進=ケエホムスも



最優秀の旭川龍谷高校

堂々として立派だった。魔よけに用いるイケマの根を噛み切ったのには驚いたが、これを見学者に廻して体験させるのも一方法かと思う。

函館工業高等専門学校の「開泰元寶について」は、継続調査中の「湧元古錢」の中からベトナム錢である「開泰元寶」が日本で初めて出土したことを確認、同校にある蛍光X線分析装置を用いての函館工専特有の発表である。

## 郷土芸能部門

### 及川 彰

(前北海道札幌開成高等学校)

この発表は野外行事から発展した。この成立過程から見ると、今回発表した各校の演奏状態では人に感動を与えることはできない。

今回は次年度に向けた練習仕方を生徒・顧問そしてすべての対象者に提示する。そして、大会参加出場校は、次の事項を研究し、より向上した演奏ができたといえるようになってほしい。

#### 〈1. 舞台演出について〉

郷土芸能設立以来の舞台演出をしている。この傾向から脱皮してほしい。そして全国出場を念頭に入れた舞台演出をすること。

#### 〈2. 号令について〉

暗転時の舞台利用と始めの号令の発声を工夫すること。例：舞台配置した演奏道具（バチなど）を活用する。こうすると、開始から一連の演奏の流れが濃くなる。

#### 〈3. BGMや映像の活用〉

学校や演奏内容紹介に相応しいBGMや映像の活用。

#### 〈4. 部隊配置など〉

舞台配置の不注意から演奏者間（今回は太鼓と演奏者との重なり）、舞台照明活用などの失敗が目立った。この点に関して成功した出場校は皆無だった。

#### 〈5. 改善点〉

演奏途中で失敗したら、瞬時に改善すること。（呼吸法の練習）

舞台後方や左右幅を考慮した配置計画をすること。

### 柳谷良逸

(前北海道函館工業高等学校)

## 1. 「怒涛」「虎擲龍擎」

〈優良〉

北海道岩内高等学校

1年7人、2年5人、3年3人の15人で、 $\Delta$ 大太鼓1・中太鼓11・ $\Delta$ 小太鼓3で編成。舞台上のバランスがあまり良くないです。中央の太鼓の笑顔が良かった。バチを置く時の音に注意してほしい。バチ先の上げ方の高さや角度が少し不揃いだった。 $\Delta$ 大太鼓の位置がセンタ

一より少しずれていました。声はリハーサルよりは出ていたし、去年までとは違い、かなりの進歩がありました。

## 2. 「乱舞」

〈優良〉

北海道石狩翔陽高等学校

1年3人、2年9人の12人で、 $\Delta$ 大太鼓2・大太鼓1・中太鼓6で編成。幡旗の位置が不揃いです。バチ先は揃っていました。腰も落ち着いています。去年より洗練された演奏でしたが、笑顔が少なかったです。

## 3. 「族」

〈奨励〉

北海道中標津農業高等学校

1年4人、2年2人、3年5人の11人で、 $\Delta$ 大太鼓1・中太鼓10・ $\Delta$ 小太鼓1・三味線1で編成。まず三味線の位置ですが、中央にとは言わないが、あまりにも端すぎるのではないかろうか。また、 $\Delta$ 大太鼓が右にもあればバランスがとれると思います。幡旗の位置に工夫をしてほしい。顔の表情もよく、声も出ていたが、少し単調だった。

## 4. 「組曲 山彦」

〈奨励〉

旭川実業高等学校

1年4人、2年8人、3年2人の14人で、大太鼓1・中太鼓7・ $\Delta$ 中太鼓2・ $\Delta$ 小太鼓3・茶釜1で編成。茶釜を担当した生徒は、上手から中央に来てまた上手に戻るのではなく、舞台を一周したりしてパフォーマンスをしてほしかった。全国大会などでは、何人もの人が踊りながら舞台を駆けめぐっている学校があります。笑顔があり、楽しそうにたたいていました。たたいている人が楽しくなければ見ている人も楽しめないと思います。茶釜の音が効果的でした。幡旗の位置と向きに注意してほしいと思います。

## 5. 「創」

〈最優秀〉

札幌創成高等学校

1年14人、2年3人、3年6人の23人で、 $\Delta$ 大太鼓3・中太鼓12・ $\Delta$ 中太鼓2・ $\Delta$ 小太鼓5・鉄管1・茶釜1・銅鑼1・鈴1で編成。鉄管・茶釜・銅鑼から入るのは独



最優秀賞の札幌創成高校

創的でした。太鼓の位置等も左右のバランスが良く、バチさばきも良かったです。メ中太鼓の韓国風の打ち方も良く、メ小太鼓のドラム風の打ち方も良い工夫です。幡旗の置く位置も邪魔にならず、全道大会というより全国大会の雰囲気が出ていました。笑顔も良く、声も出ていました。聞いている人も楽しめたし、今年の創成高校は一皮剥けたという感じです。

## 6. 「時空・衝撃」

〈優秀〉

北海道訓路江南高等学校

1年9人、2年7人の16人で、メ大太鼓1・大太鼓1・中太鼓10・メ小太鼓4・銅鑼1・鉦2で編成。舞台上の左右のバランスが良く、鉦の音が効果的でした。仕込みの時にバチの音がしたのは少し残念でした。バチさばき、笑顔、声もよく出ていました。昨年までの演奏がありにも良すぎたため、少し物足りない気はしますが、今のメンバーが来年になればもっと伸びると思います。今年は曲を変えたり、3年生が参加しなかったこともあり大変でしたでしょう。しかし、最初のつまずきをもうともせずに、気を抜かずに最後の盛り上がりにつなげたことは、さすが江南高校という感じでした。

今回の大会は、全体的に見れば、どこの学校も昨年よりはレベルアップしています。これ以降も練習を積み重ね、努力して来年の札幌大会に臨んでください。

郷  
土



優秀賞の訓路江南高校

平成23年度

# 北海道高文連集録

北海道高等学校文化連盟



北海道高文連